

2002 年度 見学会記録（第 5 回情報化委員会）

日時：2002 年 11 月 27 日（水）～11 月 28 日（木）

場所：国立国会図書館関西館、京都大学、立命館大学（衣笠キャンパス）

参加大学：22 大学 41 名

愛知学院大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、愛知大学、桜花学園大学、岐阜経済大学、岐阜聖徳学園大学、岐阜女子大学、金城学院大学、皇學館大学、椋山女学園大学、鈴鹿医療科学大学、中京大学、中部学院大学、中部大学、豊田工業大学、豊橋創造大学、名古屋造形芸術大学、南山大学、日本福祉大学、名城大学、四日市大学

国立国会図書館関西館と京都地区の 2 大学の見学を行った。

（一日目）

1. 国立国会図書館関西館（11 月 27 日 11：00～16：30）

・概要説明（11：00～11：30）

図書館協力課の事業説明後、ビデオ上映（17 分）により関西館の概要が紹介された。

・館内見学（11：30～12：00）

担当者の案内により 2 班に分かれて見学を行った。エントランスから通常入ることのできない地下書庫までの見学を行った。

（総合閲覧室）

閲覧席約 350 席。184 台の端末。電子出版専用席やマイクロリーダーも設置。開架は現在約 8 万冊。15 万冊まで収蔵可能。閲覧・複写は端末から依頼を行い、資料到着は端末や館内設置の到着案内ディスプレイに随時表示される仕組みとなっている。

（アジア情報室）

アジア言語の基本図書、雑誌・新聞が集められている。端末は多言語による入力が可能となっている。

（自動書庫）

1 コンテナ 50 冊、140 万冊収蔵可能。資料は分類せず大きさ別連番となっている。バーコードで管理。通常は依頼から 10 分ほどで出庫。

（地下書庫）

担当者が常時待機。端末から依頼が入るとプリントアウトして、出納・複写を行う。資料の搬送は搬送用の小型トロッコで行う。

・質疑応答（12：00～12：30）

主に以下のような質疑応答があった。

Q．システムは？

A．独自開発。各館のメインフレームで管理していたものを統合。第 1 期として OPAC、第 2 期として書誌を作成する仕組みを追加。書誌情報だけでなく、所蔵管理情報もわかるようにしていく予定。

Q．納本制度だと思われるが、関西館が購入している資料は？

A．基本的な参考資料は購入。日本語の雑誌と図書は東京で所蔵し、関西館は複本。洋書は約 8000 冊新規購入した資料のみ。複写は関西館が窓口となり各館に振り分ける仕組みとなっている。

Q．職員数は？

A．職員は122名。不足は外部委託で補っている。委託は清掃、食堂などの他に出納・複写サービス、レファレンスを伴わないカウンター業務等。

Q．インターネット用の端末の設置は？

A．現在は置いていない。オンラインジャーナルを提供する為の端末は準備中。

* 午後からは自由見学

利用に際しては、当日利用と登録利用があり、登録利用は身分証明書が必要。登録利用の場合、2003年1月からインターネットによる文献複写の依頼が可能となる。

(二日目)

2. 京都大学附属図書館(11月28日 9:30~12:00)

・概要説明(9:30~9:45)

図書館専門員により、以下の様な説明があった。

附属図書館、宇治分館、学部学科図書室の58ヶ所で構成されている。附属図書館は学習・研究支援が中心。附属図書館蔵書84万冊。全体で595万冊。創立は103年前で、古文献・特殊文庫など国宝、重文級の貴重書も多数所蔵。附属図書館の年間貸出8万冊。一日3000人の利用。閲覧席1100席。端末80台。

・電子図書館の紹介(9:45~10:35)

電子情報課担当者より、電子化の経緯、方法、資料の詳細な解説などが行われた。

HP上で電子化資料の公開を行っているが、月5万、年間60万人のアクセスがある。

電子化する資料は、日本の資料に限らず、国宝・重文を中心に広く関心を持ってもらえるものを選択。現在画像は218000コマ、資料数は1700点。撮影は外部委託。

また、学内向けのサービスとしては、大学出版物をフルテキスト化(英訳、朗読可能)や、OPACから電子ジャーナルへのリンクを行っている。

・情報リテラシー教育の紹介(10:35~11:00)

参考調査担当者より、附属図書館のリテラシー活動の概要、全学共通科目「情報検索入門」の紹介が行われた。

(リテラシー活動概要)

以下の5つの活動を行っている。

- 1 新入生オリエンテーション・・・4月に1週間。シナリオを作成しPowerPointで説明。
- 2 留学生オリエンテーション・・・概要、館内ツアー、OPAC実習など。
- 3 定期講習会(実習形式)・・・週に1回。誰でも参加。OPAC基礎と記事索引。
- 4 データベース講習会(講義形式)・・・業者による講義。電子ジャーナルが主。
- 5 グループ講習会(申込制)・・・積極的に募集はしていない。

「access.txt 文献調査・利用ガイド」を配布(毎年刷新)、1冊読めば情報収集方法が理解できるよう作成している。また、部局図書室でも独自のリテラシー教育を行っている。

(全学共通科目 情報検索入門)

平成10年から教員と図書館員が共同で授業を行っている。4月から7月の週1回の13日間。2から4年生対象で定員が220名。講師は教員6名と館員15名で構成。館員は補助だが構想企画段階から参画している。授業の評価方法はレポート提出。テキストは「大

学生と情報の活用』、「access.txt 文献調査・利用ガイド」

- (授業内容) 1 日目 図書館情報、および図書館の種類とその機能
2 日目 学問・研究・文献・情報
3-4 日目 分類の一般概念と分類理論(演習有り)
5-6 日目 目録情報とその利用法(演習有り)
7-9 日目 参考資料の種々とその利用(演習有り、冊子体の資料のみ活用)
10-12 日目 インターネット情報およびデータベースとその活用法(演習有り)
13 日目 勉強への招待(総長の講義)

* リテラシー教育の図書館側にとってのメリット

利用促進に繋がるだけでなく、職員の自己研鑽、意識向上となり、業者によるデータベース講習会は職員にとっても理解促進の効果がある。

・館内見学(11:00~12:00)

担当者の案内により2班に分かれて、閲覧室・書庫の見学を行った。

3. 立命館大学衣笠図書館(11月28日 14:00~16:00)

・概要説明(14:00~14:45)

総合情報センター次長田中氏より、センターの現状、今後の課題等について、以下の様な説明が行われた。

立命館大学(2キャンパス)と立命館アジア太平洋大学があり、8学部35000名の学生。週4便のキャンパス便を運行している。

各種統計分析を行っているが、図書館のガイダンスの受講者が増加すると、利用者も比例して増加傾向。入館者数経年比較分析や学部別データベースログイン数をとっている。情報化の推進が図書館の大学での位置付けを大きく変えるチャンスととらえる。全学的な効率化も含めて、見直しが必要な時期。コアデータベースの拡充が重要で、インターネット時代の教育・学習と図書館をどうリンクさせるかが問題。総合的な学術情報システムの構築や、デジタル情報の構築、トータルネットワークの構築、ハード・ソフトの最適な整備・ノウハウの共有が必要とされる。教育IT支援室を設置。

- 改革視点
- ・学習する文化の創造
 - ・学生の視点で見る
 - ・教育システムとの連携
 - ・意識改革

現在は、専任・契約・委託・学生スタッフの連携で業務を行っている。現状で最も高度なサービスをするにはどうしたら良いか検討した結果、現在の形態となっている。

・アウトソーシングについて(14:45~15:00)

現場担当者より、整理作業、カウンター業務の委託の経緯、現状について以下の様な説明が行われた。また、学生スタッフの活用について紹介が行われた。

1999年から整理業務の全面的委託。発注から配送まで一貫して委託している。

2001年からカウンターのレファレンスライブラリアン採用。

- 委託の経緯
- ・配置転換が激しくなり、一定スキルを身に付けるのが困難。
 - ・専任は業務が繁多になった為、整理が遅れがちとなった。
 - ・職員週休2日などの勤務形態の変化から、安定したサービスが困難。

委託に切り替えたところ、受入から2週間ほどで整理が流れるようになった。レファレンスライブラリアンはデータベースの知識を有するものを配置。専任職員は、学生の学習支援の立案・企画、利用状況の分析などの業務が重要な任務となっている。

<学生スタッフについて>

システム部：レインボースタッフ・・・オープンパソコンルームに常駐。学生からの質問対応、パソコンの管理などを行っている。

図書館：ライブラリースタッフ・・・1年目で試行錯誤中だが、利用者ガイダンス、館内利用の図書の記録蓄積などを行っている。

* 学生は強い動機と意識を持って参加。参画意識の高さに驚いている。図書館にとっては、利用者の生の声を聞くという利点もあり、学生自身が成長し、こちらも学生から学ぶという双方向の関係を目指している。

・質疑応答（15：00～15：25）

主に、以下のような質疑応答があった。

Q．学生スタッフについて詳しく伺いたい。また、館内利用図書の記録蓄積はどのようにしているのか？

A．最初の募集は全学生にメールで告知した。応募300名で採用100名。2回目からは卒業した学生の補充として館内掲示とHP上で募集。応募100名採用20名。定例ミーティングを月1回行っているが、学生からは提案が多く、HPのコンテンツについても意見が出る。スタッフは専用のジャンパーを着用。

記録蓄積は返却台にある図書を一冊ずつスキャナーで読み込んでもらっている。館内で利用した図書はすべて返却台に置くようになっている。

Q．学部別データベースログイン数はどのように取っているのか？

A．入学時に学生全員にIDを渡している。ログイン時にID・パスワードで入ってもらい、集計をしている。各データベース毎にID・パスワードを入力する必要があるので学生には面倒をかけている。

Q．レファレンスライブラリアンについて

A．1名常駐。2名が時差。修学館はリサーチライブラリーで参考調査も高度なので、語学力もある人を配置。データベースガイダンスの講師も行っている。レファレンス事例は記録を残して、複数で検証をしている。必要であれば専任と一緒に各種研修会にも参加してもらっている。

Q．発注からすべて委託なのか？

A．選書は専任が行っている。後はすべて委託。

・見学（15：25～16：00）

情報システム課担当者の案内により、マルチメディアルーム、情報語学室の見学を行った。その後、10～15名程度に分かれて担当者の案内により図書館の見学を行った。

端末は全学で2800台。衣笠は1200台。衣笠のオープンパソコンルームは5部屋で、510台の端末を開放している。図書館のオープンパソコンルームには120台設置。端末増設には限界があるので、現在は無線LANを取り入れている。授業との関連では、情報入門のテキストに蔵書検索やデータベース検索を盛り込んでいる。

以上